

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地 長野県上田市真田町長 6918 番地 1
評価実施期間： 平成 30 年 9 月 1 日から平成 30 年 12 月 20 日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） *050431 *B16022	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年9月現在）

事業所名： （施設名）明星学園	種別： 障害者支援施設	
代表者氏名：理事長 宮下 智 （管理者氏名）園長 宮下 智	定員（利用人数）： 40名	
設置主体：社会福祉法人 明星会 経営主体：社会福祉法人 明星会	開設（指定）年月日： 昭和44年4月1日	
所在地：〒399-2561 長野県飯田市駄科 2250 番地		
電話番号：0265-26-9456	FAX 番号：0265-26-9094	
ホームページアドレス： URL http://www.myojo-gakuen.or.jp/index.html		
職員数	常勤職員：25名 非常勤職員 14名	
専門職員	看護師 1名	
	栄養士 1名	
	生活支援員 22名	生活支援員 14名
	介護福祉士 5名	介護福祉士 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 個室 24室	（食事時間・入浴の状況）
	（居室数） 2人部屋 8室	朝食 7:00～8:00
	食堂 2室	昼食 11:30～12:30
	浴室 2室	夕食 17:00～18:00
		入浴 週3回

3 理念・基本方針

(1) 法人理念 『みんな幸せになりたい あなたも私も』

(2) 憲章では

明星学園は、本当の気持ちを伝えられずに困っている知的障がい・自閉症の方に、「パーソンセンタード（本人中心）」を基本とした、行動すべてが発信であるという「お心主義」の信念で、「意思決定支援」を実践する、あなたも、私も幸せになる場所です。と謳っています。

(3) 基本理念

- ①行動全てが発信であるという「お心主義」に基づくパーソンセンタードな支援プログラムの提供に努めます。
- ②重度の障がい者に特化した活動の場の提供に努めます。
- ③「自己選択」を尊重した意思決定支援に努めます。

(4) 行動基準

- ①笑顔で明るいあいさつを、自分から先にします。
- ②利用者の目線で安全を考え、健康や環境に異常を感じたら直ぐに報告し対応します。
- ③どんな小さな発信も受け止め、対等、肯定の姿勢で意思決定をサポートします。
- ④職員同士で報・連・相を行い、お互いを認め、助け合うチーム支援をします。
- ⑤家族や地域に情報発信し、情報共有を行います。
- ⑥関わる全ての人に「ありがとう」「助かったよ」を伝えます。

(5) 明星学園運営方針

「明星学園10年構想～グランドデザイン～」を見据え、どんなに障がいが高くても、地域社会で「主体的に生きる」ことによって自己実現が満たされることを目指し、「コミュニケーション技術」、「自己確立と自己実現の支援」、「社会参への支援」を行っていきます。

また、様々な障がいと多様なニーズを持っている利用者に対して、異なる価値の共存を認め合う「共生社会の実現」に向けて、利用者一人ひとりの「どんな暮らし」のために「何が必要か」を包括的に考え、求められる活動支援を行っていきます。

家族会との連携、外部機関との連携を図り、支援サービスの向上をめざしてまいります。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

明星学園がある飯田市は、日本のほぼ中央、長野県の最南端に位置し、東には南アルプス、西には中央アルプスがそびえ、南北に天竜川が貫く日本一の谷地形が広がり、豊かな自然と優れた景観、四季の変化に富み気候風土に恵まれています。

明星学園は、1961（昭和36）年に創設された明星保育園での知的障がい児の療育に端を発した福祉の課題として、地域や関係者の強い要請により、1969（昭和44）年に知的障がい児施設「明星学園」（定員50名）が創設されました。その後、重い障がい児の生活棟の増設等を経て、1979（昭和54）年には、知的障がい者更生施設第二明星学園（定員30名）が新設されました。1986（昭和61）年に、知的障がいの重い人の生活棟の増設を行い、同時に児者転換（児童施設を成人施設に変換する）を行い、（明星学園40名、第二明星学園60名）の定員としました。

また、地域移行を積極的に推し進めるため、1989（平成1）年にグループホーム「有明寮」、1992（平成4）年に「有誠寮」、2016（平成28）年には「北方のぞみハイツ」を新設し3つのグループホームとなりました。その後、「有明寮」と「有誠寮」は老朽化のため閉鎖となり、2017（平成29）年にグループホーム「北方日の出ホーム」を新築し、合計2つのグループホーム（定員10名）で新たにスタートし現在に至っています。

明星学園の利用者は、若く活動的であり、強度行動障害の方が多いいクラス（星組・20名）と落ち着きがあり、比較的介護が必要な方の多いクラス（月組・20名）があります。特徴的な取り組みとしては、日中活動（仕事や活動）では、どんな重度の方も、その人に合った作業種が工夫されており、ほとんどの人が作業に取り組んでいる。アクリルたわし、ひのきの入浴剤、クッション、ヘアアクセサリなどの生産品を作成し外部販売を行ったり、空き缶つぶしなどの軽作業やアート活動、アロマセラピー、運動、音楽、ドライブなどさまざまな選択肢を用意し、「癒し」「ゆとり」「生きがい」を心がけながら充実した生活が過ごせるよう支援がされていました。また、利用者が提案した地域のイベントに“わくわくハピネス”という名称をつけ、多くの利用者を誘い合っで参加している。また、旅行や外出など自己選択のための機会を提供していて、中でも旅行は、担任職員と安心して長い時間を過ごせる貴重な時間となっている。常に健康で明るい生活が行われるよう、医療との連携を密に図りながらの支援が行われていました。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初回
---------------	----

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○ 社会福祉法人として本来あるべき姿に向けた取り組みが実践されていました。

昭和37年の社会福祉法人設立以来、長野県社会福祉法人では草分け的存在として、特に南信地域の児童福祉、障害児・者福祉をけん引し、その発展に寄与してきた歴史があります。その間に社会福祉法人として、地域におけるモデル的な形態を整えてきました。また、これからの社会福祉法人に求められる先駆的・開拓的使命として、特に「重い知的障がい・自閉症」に特化した支援体制を永きにわたり実践・構築する中で、障がい施設をリードしてきた実績は多大のものがあります。実践されてきた内容については、明星学園主催の「療育研究会」「臨床動作法飯田月例会」等の研究会やホームページなどにより広く地域に発信を行い、南信地域における障がい児・者の中心的存在として機能していました。これらの内容から、社会福祉法人が目指すあるべき姿を追及していく姿勢を強く読み取ることができました。

○ 組織として、オープンで透明性のある運営・経営が行われていました。

社会福祉法人及び福祉事業所が今日求められている課題の一つとして「組織の透明性」があります。明星学園では、理念・憲章・運営方針といった法人の基本的な内容から、予算案や決算収支報告などの経営的な内容。また、利用者の活動内容や支援の考え方に至るまで、広報誌や法人ホームページ、パンフレット等で積極的に情報を公開していました。法人内には、広報委員会という部署があり、ホームページのブログの更新、学園機関誌「プリズム」の年2回の発行、学園だよりの年5回

の発行、クラス新聞の発行などを行い、対外的に情報発信を行うことにより、オープンで透明性のある運営・経営が行われていました。

○職員が意欲を持ち生き生きと働くことのできる職場づくりと、人材育成のための取組みが行われていました。

平成26年度より、明星学園人材確保・育成・定着マップの作成が始まり、各年度ごとの「対応・施策」「内容・ねらい・効果」を具体的に定め、その実現に向けた取組みが行われていました。平成30年度の実施内容としては、リクルートナビゲーションへの掲載、住宅手当のアップ、リーダー職を各クラスへ配備する等、働きやすい職場づくりを積極的に推し進めていました。その成果として、平成29年度には、正規職員の離職率が0%となり、職員が意欲をもち働くことができる、安定した職場となっていました。訪問調査時の職員面接においても、「待遇面を含め、とてもやりがいがある職場である」という声を多く聞くことができました。

○重い知的障がい・自閉症の方への専門的支援プログラムが確立されていました。

明星学園は障がい福祉の中で、重度の知的障がいの人達、自閉症の人達への対応を中心とした支援を行ってきた。この人達の「パーソンセンタード（本人中心）」を基本とした行動すべてが発信であるという「お心主義」の信念で、「自己決定支援」の実践を行う場であると定めています。専門的視点としては、『物語としての人生』という行動理解の方法と『向かう心の支援』という係わりの方法により、誰でもが望んでいる「幸せになること」の実現に向けた取組みが行われていました。また、支援体制については、音楽療法、動作法、理学療法士による巡回指導、言語療法士による巡回指導、アート活動によるワークショップ、アロマセラピーなどを専門の外部講師による療育方法を取り入れた支援プログラムが日替わりに近い形で実施されていました。

○が研鑽し向上できる学びの場としての土壌が保障されていました。

「勉強をしたいなら明星学園で」と言われるほど、多くの研修が行われ、職員にとっては学ぶことができる環境が整えられていました。また、学ぶことだけでなく、その内容をどう日常の支援の中に生かし、個別支援力とチーム支援力を磨き、利用者の「行動理解」に繋げ利用者の幸せを実現していくかを追求した学びが、臨床学的に実践されていました。職員の意欲的な学びは、平成26年より行われている、新キャリアパス制度や人事考課制度にも反映される仕組みとなっていました。

◇特に改善する必要があると思う点

○障がいの重い方の利用が多くなる中、職員への負担が過重となってきている面を感じました。

明星学園の利用者の90%以上が重度（A1）の利用者であり、利用者の高齢化、重複障がい化が進む傾向の中、支援・介護を必要な利用者が多くなり、必然的に職員への負担が多くなってきている様子が伺えました。今後ますますそうした傾向が大きくなることを考え、職員への負担過多にならないような対応を整備して頂くことを望みます。

○職員全体への情報の提供と共有に向けたより一層の取組みを期待したい。

職員の自己評価項目広範にわたり、「できている」と回答した職員と「分からない」

と回答した職員が同数程度おり、パート職員の割合も高くなる傾向の中、全職員への情報の伝達と共有化へ向けたより一層の取組を期待します。

○利用者にとり暮らしやすい空間づくりへの対応を望みます。

明星学園の建物は、中庭を取り囲むような円状のモダンな建物ではありますが、増改築が行われ20年が経過しています。居室が32室ある中、個室が24室ありますが、二人部屋も8室あり、約半数の利用者が二人部屋の利用となっていました。また、重度・高齢化が進む中、車イス利用者も増加し、建物玄関のスペースにやや狭さを感じました。また、今年の夏は特に猛暑ということもありましたが今後、猛暑化が懸念される中、居室等を含めエアコンの設置数の増加の検討をお願いしたい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評（別添1、2）

共通項目

内容評価項目

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添3-2）

長野県福祉サービス第三者評価事業評価の結果取扱い要領第2条第1項の規定により、有効回答者の数が、10人未満のため非公開とします。

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）